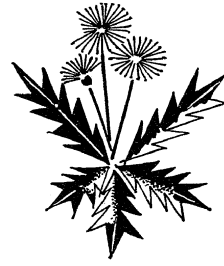


農業



平成29年6月号
会誌 No. 1626

目次

巻頭言

子供たちにも農業の魅力を伝えたい……………夏秋 啓子 3

論 壇

「田園回帰」現象に思う……………祖田 修 4

農業懇話会

(有) トップリバーの野菜経営の取組と展開方向……………嶋崎 秀樹 6
質疑応答…………… 18

地域セミナー 秋田

秋田農業の未来をつくる I 担い手育成への新たな挑戦…………… 22
いま求められる秋田農業の担い手……………中村 勝則 22
家族経営のころをもった男前一家のこだわり米への挑戦……………武田 昌大 24
「九条ねぎ」ブランドづくりに向けた新たな担い手育成の教訓……………山田 敏之 30
パネルディスカッション…………… 38
総括コメント……………角田 毅 44

研究の最前線

グルテンフリー米粉パンの製造技術の開発……………矢野 裕之 46

農業・農村の現場から

日本有数の豪雪地，信州いいやま観光局の取り組み……………柴田さほり 56

世界の農業は今

ミャンマー稲作の基礎知識……………入江 憲治 61

私の経営と志

天気晴朗ナレドモ浪高シ……………青井 秀典 67

統計情報

平成28年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量…………… 69

農政情報…………… 70

大日本農会だより…………… 71

編集部から…………… 72

ミニ情報

地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物(7)…………… 70

表紙写真説明

棚田の稲作（飯山市瑞穂地区福島）

棚田は、傾斜20分の1以上の山地・丘陵斜面に拓かれた水田のこととされている。したがって、山国と言われる長野県に棚田が多かったとしても不思議ではない。実際に全水田のなかで棚田の占める比率は、全国では約8%であるのに対して、長野県は約19%であり、棚田の多い県といえる。

その中でも、飯山市福島石積は、立体的かつ芸術的である。また、この水はサンショウウオが住んでいるほど美しい。長野県では、平成25年度から「信州ふるさとの見える（丘）」として、「信州らしさ」や「ふるさと」が実感できる農村風景の魅力を県内外に発信することなどを目的に、ビューポイントの認定をはじめた。そして、飯山市においては、「福島さんべの里（福島棚田）」が認定された。

優れた棚田景観は、来訪者の眼から探勝的景観のうえからも貴重な観光資源として評価されるようになってきている。このような棚田は先人が築いた遺産であり、労力を惜しまず注ぎ込んで維持しようとした農民の結集された魂をみる思いがする。このような素敵な景観を見るにつけ、先人への感謝を忘れてはならない。そしてその意志を後世につなげることも。（写真：信州いいやま観光局，文：飯山市経済部農林課 出澤 俊明）